

(2022年度) 学校版環境 I S O への取組
 < 学校名：荅北町立荅北中学校 >

1 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子(写真)	取組の実際
宣言		<p>前年の宣言を引き継ぎ、学校版環境 I S O をより周知し、意識化できるよう前年度の取組の継続や学級生徒会と短学活での呼びかけを行った。</p> <p>※ () 内の数値は目標値であり、3 ~ 0 で評価する。</p> <p>①出るゴミを減らし、ゴミを分別して、リサイクルに努めます。(2.8) ②手洗い・歯磨きの水を節約し、使用しないときは確実に蛇口を閉めます。(2.6) ③使わない教室の電気を消し、省エネに努めます。(2.6) ④給食の残菜ゼロに努め、食べ物を大事にして楽しく食べます。(2.6) ⑤無言清掃に努め、時間いっぱい取り組みます。(2.4)</p>
行動		<ul style="list-style-type: none"> ・美化コンクールの際にゴミの分別について細かくチェックを行い、不備な場合は次の日の短学活で環境美化委員からクラスへゴミ分別の呼びかけを行った。また、隔週1回の各クラスのゴミの回収の際に環境美化委員でチェックを行った。 ・新型コロナウイルス感染予防対策も含め、歯磨きをコップに注いだ水を使って行うことで、水を使う量を節約できるようにした。 ・移動教室の際の教室整備の徹底に全校で取り組み、教室の消灯、空調機器のスイッチ切りを係や日直など、複数で確認するようにした。 ・清掃活動の時間に校内巡視を行い、委員長から全校生徒へ「無言掃除」の様子の評価を校内放送で行った。 ・地域のボランティア活動として町の取組に合わせて学年毎に、海岸清掃や学校周辺のゴミの回収を行い、奉仕活動への意識を高めた。 ・校舎周辺の学年園では、花や野菜を季節毎に育てることで、水やりや草取り、収穫など、みんなのために働くという活動を取り入れた。
記録		<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月に全校生徒を対象に「学校版環境 I S O チェック表」を配付し、I S O 宣言の項目に対しての自己評価を行っている。 ・7月と1月のチェック表の結果を比べると、呼びかけや取組の習慣化の成果か全学年とも「水の節約」や「残菜ゼロ」「無言清掃」の項目では伸びが見られる。 ・「無言清掃」の項目に関しては、7月が2.1で1月が2.2と微増ではあるが、5つの項目の中で一番低い。
見直し		<ul style="list-style-type: none"> ・美化コンクールの結果について、毎日結果を各学級に周知し、自分の学級の課題を翌日に意識できるようにした。また、コンクールが終わった際に学校全体の課題を校内放送で周知し、全校生徒への意識付けを行った。 ・学校版環境 I S O 宣言のチェック表の分析を細かく行い、課題を全校生徒に意識させる必要がある。 ・学校版環境 I S O 宣言の定義や、学校版環境 I S O 宣言に基づく具体的な行動を取組の前に全校生徒へ周知し、意識付けが必要である。また、継続的な啓発も必要である。

(2) 成果と課題

成 果	課 題
<p>○学校版環境 I S O 宣言と美化コンクールのチェック項目、移動教室の際の教室整備を関連付けて行ったことで意識付けができ、ゴミの分別、省エネの項目で生徒の行動に変容が見られた。</p> <p>○美化コンクールをクラスマッチ方式で行ったことで、環境美化委員を中心にクラス全員で教室美化に意識して取り組むことができた。</p> <p>○地域の清掃活動に参加したことで、自分たちで地域をきれいにしようという気持ちを高めるとともに地域のボランティア活動への参加意欲を高めることができた。</p>	<p>▲学校版環境 I S O 宣言のチェック表の分析を行い、良かった部分と課題である部分を全校生徒に校内放送や学級生徒会、生徒議会、短学活など様々な場面で周知し、意識させる必要がある。</p> <p>▲年度初めに学校版環境 I S O 宣言の定義やそれに基づく目指すべき具体的な行動を全校生徒でしっかりと確認をする場を設定し、年度を通した取組が必要である。</p> <p>▲5つの項目の中で無言掃除の評価が一番低く、コミュニケーションをとることと、無言で主体的に取り組むことのメリハリをつけさせたい。</p>